

きたいにほんしんぶん八月九日

「ナウシカ」モデルのひこうきのきじ七上

んで

むらつばきしようが、こう

一ねん おおっぽ きおみ

えいが「かせ」のたにのナウシカでみたひ
こうきが、しんぶんにでていっておどろきました。
えいがとちがてタイヤがついていたけ
ど、がたちはそくりでか、こいいとおもい
ました。こんなひこうきは、えいがのなかを

けたとおもていたので、しやしんでみてひ
くりました。ナウシカがのこているみた
いに、いつかわたしゃのてみたいです。

宮崎駿監督の映画「風の谷のナウシカ」に登場する飛行装置「メーヴェ」をモデルにした小型飛行機が、北海道滝川市で試験飛行を重ねている。パイロットは

開発者でメディアアーティストの八谷和彦さん(48)。世界にただ一つだけの、カモメのような白い機体は、平和への願いを乗せ、空に高く舞い上がる。

映画「ナウシカ」モデル 小型飛行機

7月下旬、滝川市のたきかわスカイパーク。「キン」という鋭いエンジン音を上げた機体がゆっくりと滑走し始めた。バランスを取りながら走るこ^とと20秒。ふわりと離陸すると、約15秒間空を舞い、静かに着陸した。操縦方法は独特だ。機体に腹ばいになつて乗り、重心を前後させると機首が上下し、体を左右にひねると旋回する。ライト兄弟が世界で初めて動力飛行を成し遂げた「ライトフライヤー号」に近い形式だといふ。

機体の名前は「M-02J」で、全幅9・63m、全長2・67m、高さ1・36m。木材と強化プラスチック、アルミニウムから作られ、重さは原動機付き自転車と同程度の88・6kg。しかし、ジエットエンジンを搭載する。

八谷さんは佐賀県出身。会社員生活を経て、ソフトウェア開発を手がける



「メーヴェ」をモデルにした小型飛行機の試験飛行。開発者の八谷和彦さんが操縦する=7月21日、北海道滝川市のたきかわスカイパーク(八谷さん提供)

機体に託す平和への願い

ことし9月まで、飛行条件が良い滝川市で地上3m以下の飛行を繰り返す。実績を積み、国土交通省航空局の許可を得られれば、地上約200mを飛ぶのが目標だ。年内に達成し、その後は米国やフランスの航空ショーに展示したいという。八谷さんは「現代のテクノロジーを使い、架空の乗り物をかなり実現できただ。これからは分析と調整を繰り返し、イメージ通りの飛行に近づけたい」とさらなる意欲を見せた。

会社を設立、クマなどのキャラクターを読んだ1998年から漠然と、メーヴェを作つてみたいという思いを抱いていた。開発を始めたのは2003年。きっかけはイラク戦争だった。当時の小泉純一郎首相は米国のイラク攻撃を支持。復興支援などを目的に自衛隊を派遣した。八谷さんは、ナウシカの故郷「風の谷」が、大国民土の争いに巻き込まれる漫画の展開と重ね合せて「日本のリーダーが、争いを避ける道を探つたナウシカだったようかったのに」との思いが脇うんだという。芸術家として、軍事行動への加担に反対する意思を示したい。平和への願いを、メーヴェに託して飛ぼうと決めた。自らパイロットになるため、ハンググライダーで飛行訓練し、ブラジルの伝統武術カポエイラで、体の強化にも取り組んだ。10年余りで費やした1億円弱は、自身の会社の研究開発費と自腹で賄い、昨年7月に千葉県で初飛行に成功した。